

CHIBA 赤十字 NOW

2024
Vol. 65



【特集】赤十字の災害救護

令和6年能登半島地震での医療救護班による巡回診療の様子



赤十字の災害救護

近年、日本各地で自然災害が増え続けています。今年1月に石川県で発生した令和6年能登半島地震のほか、千葉県内でも、令和元年房総半島台風や昨年9月の台風13号に伴う大雨などにより大きな被害が発生しています。

今回は、赤十字が災害時に行っている活動と、災害に備えて日頃から行っている活動にスポットをあて、ご紹介します。

災害時の赤十字の活動

- ①医療救護 ②こころのケア ③救援物資の配分 ④血液製剤の供給 ⑤義援金の受付

医療救護

災害発生時には、いち早く医療救護班を被災地に派遣し、災害により崩壊してしまった地域の保健・医療が立ち直るまで、支援活動を行います。

代表的な活動としては、被災地で怪我や病気にかかった方の診療を行うための救護所の設置・運営や、避難所等を訪問して体調を崩されている方がいないか確認する巡回診療が挙げられます。

被害が甚大な場合や、保健・医療機関の復旧に長期化が見込まれる場合には、全国各地の赤十字施設が協力して、順次、医療救護班を派遣し、継続して活動を行います。

日本赤十字社の医療救護班

定員6人

【班長】医師：1人

【班員】看護師長：1人

看護師：2人

主事：2人

※状況に応じて、薬剤師、助産師、放射線技師等を加えるなど人員を増減することができ、千葉県支部では薬剤師1人を加えています。



▲令和元年房総半島台風

こころのケア

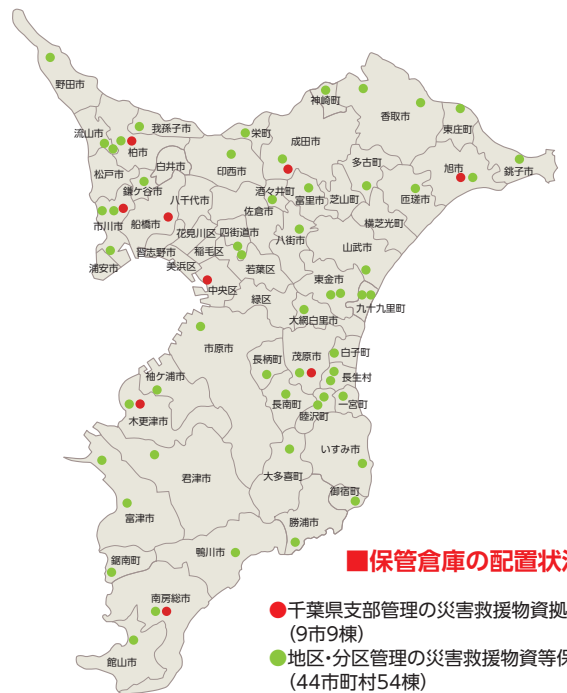
被災地の避難所や地域を巡回しながら、被災者から、健康や身近な悩みなどをお聞きし、力になれるように支援するとともに、ストレスへの対処法などについてお話しするなど、**心理面から安心と安全を提供**しています。



▲平成28年 熊本地震

救援物資の配分

救援物資を備蓄する倉庫を県内各地に設置し、災害が起きた際に迅速に配布しています。千葉県内には千葉県支部が管理している倉庫が9か所あり、各市町村が管理している倉庫が54棟あります。



血液製剤の供給

災害という非常事態であっても、全国の赤十字のネットワークを駆使し、命をつなぐ血液製剤を円滑に供給しています。



義援金の受付

大規模な災害等が発生した際、被災者の支援のために、義援金を受け付けています。



平時(災害が起きていないとき)はどんな活動をしているの?

災害発生時、県やその他関係機関と協力して災害救護にあたるため、日頃から各機関と防災計画の見直しを行うほか、**情報収集や訓練**などを定期的に行い、いざという時に**協力しあえる体制**を常に整えています。

また、各市町村の担当者と連携を取り、災害時に助けを必要としている方に必要な物資を届けられるよう、**救援物資の備蓄と管理**を行っています。



こうした救援物資は、大きな災害の時だけ配布されるの?

救援物資は、大規模災害以外でも、**火災や家屋の床上浸水**などで被災された方にも配布しています。

被災者のための救援物資

日本赤十字社では毛布をはじめ、緊急セット、安眠セットを備蓄しています。

緊急セット

家族4人程度が生活に必要な日用品(タオル・ティッシュ・懐中電灯・携帯ラジオ・マスク・軍手など)が入っています



安眠セット

避難所などで少しでも快適に眠れるようにマット・枕・アイマスク・スリッパ・耳栓が入っています



活動資金と義援金の違いをご紹介します

活動資金

《日本赤十字社が行う人道的活動のために》

日本赤十字社の活動は、会費や寄付を合わせた活動資金で支えられています。

活動資金を財源に、平時は救護訓練や資機材の整備、救援物資の備蓄を行っており、いざ、災害が発生した際は、医療救護活動や救援物資の配分を行います。

義援金

《全額を義援金配分委員会へお送りします》

日本赤十字社は、被災都道府県に設置される義援金配分委員会へ義援金を全額お送りします。義援金は同委員会で定める配分基準に従って、市区町村等の自治体へ配分され、被災地の方々の生活支援に役立てられます。義援金が日本赤十字社の活動資金や事務経費に使われることは一切ありません。



活動資金 ご協力のお願い

皆さまから頂いた活動資金によって、赤十字の活動を行うことができます。赤十字は、公的資金を使わずに事業を行うことによって、国などから独立し、公平・中立の立場で人道的活動を行っています。今後とも皆さまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

令和6年能登半島地震 日本赤十字社千葉県支部の救護活動

令和6年1月1日、石川県能登地方を震源とする地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。日本赤十字社千葉県支部では、発災直後から支部に参集し、情報収集などを行いました。また、被災地に成田赤十字病院の職員を中心に編成された医療救護班や日赤災害医療コーディネートチームを派遣するなど、災害救護活動を展開しています。

1月8日～12日 日赤災害医療コーディネートチーム派遣

日赤災害医療コーディネートチームは、被災地の保健医療ニーズを把握し、関係機関との協議・調整を行うとともに、医療救護班の活動に関して医療救護の専門的観点から活動調整等を行うチームです。医師1名と事務職員2名の計3名で構成されたチームが、石川県珠洲市に設置された第2ブロック^(※)活動拠点本部において、医療救護全般にかかるコーディネート業務にあたりました。



避難所で活動する医療救護班に注意事項を伝える成田赤十字病院医師

(※)日赤は全国47都道府県にある支部をエリアごとに6つのブロックに分けており、災害時には被災状況に応じて相互支援を行っています。第2ブロックは、東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、新潟、山梨で構成されています。

コーディネートチームが 生活したテント村

第2ブロックが主に活動している石川県珠洲市は宿泊先の確保が難しかったため、テントを設営し、そこで生活しました。
設営期間：1月7日～20日



1月15日～19日 医療救護班(第1班)派遣

医師2名、看護師3名、薬剤師1名、事務職員4名の計10名で編成された医療救護班を石川県珠洲市に派遣し、救護所で体調を崩した被災者の診療を行なったほか、避難所を巡回し被災者の診療やアセスメントを実施しました。



避難所で巡回診療を行う成田赤十字病院看護師

救護班が活動した救護所

珠洲市内のクリニックが被災し、かかりつけ医に受診できない被災者の健康を守り、地元の総合病院の負担減らすことを目的に1月14日から「道の駅すずなり」に救護所が開設されました。



当支部では、2月以降も医療救護班や日赤災害医療コーディネートチームの派遣を予定しています。
今後も継続して、被災地の支援活動を行ってまいります。

活動状況について
詳しくはこちら



義援金受付中
詳しくはこちら



東日本大震災を語り継ぐ ベトナム青少年赤十字 メンバーとの国際交流

11月17日(金)～26日(日)、アジア各国から青少年赤十字・赤新月メンバーが来日し、各県支部が主催するプログラムなどに参加しました。

千葉県支部では11月18日(土)～23日(木・祝)、ベトナムから来日したフォンさんを迎え、ホームステイや学校訪問、地域見学などを通して県内の青少年赤十字メンバーや赤十字奉仕団員との交流を深めました。東日本大震災で津波の被害を受けた旭市では、自然災害の怖さと防災の大切さを学びました。



旭市防災資料館で震災当時の話に真剣に耳を傾けるフォンさん

500人超が来場！ 赤十字ふれあい祭り

11月23日(木・祝)千葉県赤十字会館で「赤十字ふれあい祭り」を開催しました。

当日は、近隣の沿道(臨港プロムナード)で千葉県誕生150周年を記念したパレードが開催され、千葉みなとエリアに約7万2千人が集まったこともあり、当会館にも500人を超える多くの方が訪れ、大盛況となりました。

イベントでは、各体験ブースで来場者の皆さんに赤十字活動を体験いただきました。体験を通して、楽しみながら赤十字について知っていただく機会となりました。



義肢製作所の指の型取り体験に参加した親子

UR都市機構×日本赤十字社 地域で支える認知症

UR都市機構では、幅広い世代の多様な人々が生き生きと暮らし続けられる住まい・まちづくりに取り組んでいます。その一環で、12月15日(金)千葉市内の団地において、UR都市機構と日本赤十字社の共催による防災と認知症の講習会を開催しました。

赤十字は、認知症の症状や対処法、早期発見と予防などについて、団地住民の皆さんにお伝えしました。認知症をむやみに怖がるのではなく、正しく理解することが、認知症の人やその家族を支える地域づくりにつながります。

赤十字の講習会は自治会等での開催も可能です！



熱心にメモをとる参加者

くわしくはこちら



赤十字防災ボランティアが活躍 台風13号に伴う大雨への対応

9月8日(金)台風13号の接近に伴い、千葉県に線状降水帯が発生し、県南部を中心に記録的な大雨が降り、河川の氾濫や土砂災害などの被害をもたらしました。

千葉県支部では、千葉県赤十字防災ボランティア延べ61名を茂原市災害ボランティアセンターに派遣し、災害ボランティアの安全衛生やけがの応急手当を担当するなど、センターの運営を手伝いました。

また、9月15日(金)から義援金の受付を開始し、総額約1,700万円(千葉県配分額)をお寄せいただきました。お寄せいただいた義援金は、義援金配分委員会を通じて全額被災者の皆さんへお届けします。



活動後の災害ボランティアに手洗いや消毒を促しました

銚子地方気象台×日本赤十字社千葉県支部 家族で学べる防災イベント「まなぼうさい」

地域・家庭における防災意識を高めるため、銚子地方気象台と協力して、防災イベントを開催します！クイズやゲームを通じて、家族で防災について学び、いざという時に備えよう！

■日 時：2024年3月10日(日) 【第1回】11:00～【第2回】13:00～
【第3回】14:00～【第4回】15:00～
各回 30分程度

■場 所：イオンモール幕張新都心 グランドモール1階グランドコート

■内 容：●**防災クイズ**

地震や津波が起きたとき、あなたはどの行動をする？

もしもの時に役立つ防災知識を3択クイズに答えながら楽しく学べます。

●**家具安全対策ゲーム～うちのキケン～**

お部屋の平面図を描いて、おうちに潜んでいる危ないところを探してみよう！

家具の安全対策について考える機会になります。

■対 象：小学生(高学年)とその保護者

■参加費：無料

■申 込：事前申込が必要です

くわしくは当支部
ホームページを
ご覧ください



先着200名限定で
生まれた日の天気図をプレゼント！
ご希望の方は2月20日(火)までに
お申し込みください



気象庁マスコットキャラクター
はれるん

高校生献血啓発メッセージコンテスト 応募作品を公開

千葉県赤十字血液センターでは、第36回千葉県高等学校文化連盟放送コンテストに共催し、「行こう！献血！」をテーマに、若年層をはじめ広く県民の皆さまに向けて献血の大切さを伝える内容のオリジナル音声作品(30秒)を募集しました。

コンテストの本選は11月19日(日)に千葉県教育会館で行われ、赤十字特設部門には県内11校からの応募がありました。

応募作品は血液センター公式 YouTube で限定公開しています。高校生ならではの視点で制作された魅力的な作品ばかりですので、ぜひご聴取ください。



優秀賞を受賞した県立柏南高校の生徒

活動資金 協力企業

(団体)の
ご紹介

日本赤十字社の活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています。赤十字のサポーターとして、活動を支えていただく「大きな力」となっています。ご協力、誠にありがとうございました。

※令和5年度第2四半期に千葉県支部へ直接10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了解いただいた法人(団体)のお名前をご紹介します。なお、千葉県支部ホームページにおいてもご紹介しています。(敬称略・五十音順)

秋草産婦人科藤原小児科医院(四街道市)
株式会社 エスコポーレーション(船橋市)
小澤土地家屋調査士事務所(柏市)
かすみメンテナンス株式会社(松戸市)
キックマン株式会社(東京都港区)
京相製管株式会社(山武市)
株式会社 京葉銀行(千葉市中央区)
株式会社 小糸鉄工(八街市)
株式会社 三栄(八千代市)
株式会社 シンク・ラボラトリー(柏市)

伸和ピアノ株式会社(千葉市花見川区)
株式会社 千葉銀行(千葉市中央区)
株式会社 坪井設計(船橋市)
医療法人ティ&ケイくろさきこどもクリニック(千葉市稲毛区)
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会 千葉県支部(千葉市美浜区)
日本労働組合総連合会 千葉県連合会(千葉市中央区)
株式会社 バースヴィジョン(松戸市)
有限会社 マルコー物流(成田市)
社会福祉法人 南小中台福祉会 南小中台保育園(千葉市稲毛区)
株式会社 横打(習志野市)